

笹岡啓子 ■ Kanko-3

撮影ターミナルハッセルブラッド503CX1・ブラ
ナー80ミルフ28・フジカラーNewプロ400

去った後の静かな9月。
いまま終わる。写真はウミネコたちが

青森県八戸市、種差海岸。天然芝が広がる海岸の起点となる蕪島は、ウミネコの繁殖地。春先には産卵のために数万羽のウミネコが小さな島を埋め尽くし、乱舞する。遠くから眺める分にはいいのだが、ひとたび近くに寄ればヒッチコックの「鳥」さながらの恐怖。甘くみて近づくと悲惨な目にあう。おちおち車から出ることもできず身をかがめていると、ボンネットをどかどか飛び回り、フロントガラスごしに歌舞伎役者のような赤い目がにらみつける。少しの勇氣とフン避けの傘さえあれば神社の石段を登った先から、絨毯のように埋め尽くすウミネコのコロニーを見ることができ

●フィルムとフィルムカメラのことは、もう聞き飽きたかも知れませんが、口絵作品に関してひとこと。ここでは投稿作品も含めて、圧倒的にフィルムが多いです。もちろんここ数年でデジタル作品も次第に数を増してきましたが、世間の傾向とは真逆で、多分7割くらいがフィルム作品。別に写真表現をめざす写真家達がコンサバというわけではないのでしようが、理由はそれぞれ多様です。今さらパソコンに触るのも何なので、という消極的なものから、「絶対にフィルムがいいのだ」というのは信仰心、あるいは被写体によって使い分けるといったところ。その中でも「仕事はデジタル、作品はフィルム」という、予想のつく結論が多いようです。この辺は分かったようでよく考えてみると分らないのですが、なんとはなしに納得してしまう感じです。そこにフィルムという存在が持つ魅力、秘密があるのかも知れません。その辺ははずれ、ということ。(M)



五大桜 / 清水洋志 (しみず・ひろし)

1968年東京都生まれ。大日本印刷会社で勤務の後、日本写真芸術専門学校2部で樋口健二氏に師事。卒業後、写真家に転身。現在フリーの写真家として活動中。写真集に「夜桜」。日本写真家協会会員。



SNOWY / 萩原義弘 (はぎわら・よしひろ)

1961年群馬県生まれ。日本大学芸術学部写真学科卒。さがみはら写真新人奨励賞受賞。主な展示に「巨幹残栄」。写真集に「巨幹残栄・忘れられた日本の炭坑」現在、毎日新聞社出版局写真部勤務、九州大学石炭研究資料センター学外研究員、金属鉱山研究会会員。



沖縄ガーデン / 平良正己 (たいら・まさみ)

沖縄県生まれ。早稲田大学教育学部(生物学専修)卒。沖縄本島中北部・離島を中心に撮影している。現在、県立沖縄工業高等学校教諭。

そのままで、君たちは
鷺尾倫夫 (わしお・みちお)

1941年東京都生まれ。国立高浜海員学校、日本写真学園研究科卒。'91年伊奈信男特別賞、'96年編集者が選ぶ雑誌ジャーナリズム賞受賞。写真展多数。写真集に「原色の町」「写真」。



めぐるカーニバル / 白根 全 (しらね・ぜん)

東京都生まれ。青山学院大卒。日本で唯一、世界中でも2人しかいないカーニバル評論家、ラテン系写真家。フォトジャーナリストとして、さまざまな理由をつけて現地に入り浸っている。現在までに訪れた国は6大陸、140カ国超。地平線会議同人。

浅草
東小園文隆 (ひがしこそこの・ふみたか)

1946年北海道生まれ。日本大学芸術学部中退。「微笑」「フォーカス」を経て現在、「女性自身」カメラマン。



POOL / 平野太呂 (ひらの・たろ)

1973年東京都生まれ。武蔵野美術大学造形学部映像学科卒。2000年よりフリーランスに。スケートボード専門誌「SB」創刊に関わり、フォトエディターを勤める。「SB」「relax」にてスケートボードの記事を企画、提供している。その他、CDジャケットやファッション誌などでも活躍。最新刊「POOL」(リトルモア)。

華宇宙から「実」
田ノ岡哲哉 (たのおか・てつや)

1954年和歌山県生まれ。'95年からフォトクラブイオ代表。写真展に「華宇宙(Ⅰ~Ⅲ)」。著書・作品集に「身近な風景撮影」「フォトポートフォリオ 華宇宙」。



盆地〜もうひとつの記憶

大浦タケシ (おおうら・たけし)
宮城県生まれ。日本大学芸術学部写真学科卒。雑誌カメラマン、デザイン企画会社を経てフリー。現在、カメラ雑誌、コマーシャルを中心に活躍中。



菜園花 / 後藤 亘 (ごとう・わたる)

1929年岐阜県生まれ。'94年朝日新聞に「長良川の四季」を30回連載。現在、長良川、花園の花、岐阜県春日村を撮影。全日本写真連盟中部本部委員、日本写真協会会員、岐阜県芸術文化会議常任理事。



恐れと希望 / エドワード・レビンソン

1953年アメリカ・バージニア州生まれ。バージニア州立コモンウェルス大学で写真を勉強する。ピンホール写真を主体にして、国内外で展覧会活動の他、写真ワークショップを各地で行う。著書多数。pinhole resource協会(アメリカ)会員。日本針穴写真協会国際部長。
http://www.edophoto.com

連載 ■ ライカで散歩[15] 神社のイチョウ
北井一夫 (きたい・かずお)

1944年中国鞍山生まれ。日本大学芸術学部写真学科中退。日本写真協会新人賞、第1回木村伊兵衛賞受賞。写真展多数。主な写真集に「1970年代NIPPON」「1990年代北京」。

連載 ■ Kanko[3]
笹岡啓子 (ささおか・けいこ)

1978年広島県生まれ。東京造形大学卒。'01年より自らが参加するphotographers' gallery(東京)を中心として作品を発表。小冊子「HORIZONS」を刊行(自主制作)。写真展多数。